

# I 【学生】 「授業評価アンケート」 結果報告

## 結果まとめ

授業評価アンケートは、くらしき作陽大学及び作陽音楽短期大学（以下、全学）で令和元（2019）年度に開講された全授業の全履修生を対象として前期及び後期の最終授業においてそれぞれ行った。ただし、この報告書が依拠したのは、授業回数の3分の2以上の出席という条件を充足している履修生（以下、履修生）の回答のみである。その回答からは、前年度同様、履修生が教養科目よりも専門科目を重視している傾向が窺える。授業に対する評価は、過年度と比較すると、全体的に肯定的回答の割合が増加しつつある。

出席率は、15回の授業のうち出席14回以上の履修生の割合が87%～97%に上るなどその真面目さが窺える。だが、予習・復習に関しては、シラバスは全学を通してあまり活用されていない。そして授業外の学修を「全くしない」履修生の割合は、教養科目において30%前後であり、専門科目においては15%前後である。この実態を踏まえ、教員は授業と授業外の学修を一体的に捉え、授業外の学習課題をシラバスに具体的に明記したり、授業の中で指示したりする必要がある。

なお、授業がシラバス通りに行われていたと評価した履修生の割合は85%前後である。そして履修生の8割以上は、授業は工夫されており適切に実施され、わかりやすかったと評価している。テキスト選定や板書などの授業技術に関する評価も高く、専門科目においては履修生の9割前後が授業者に熱意を感じており、授業を理解できたと評価している。

授業目標の到達度に関しては、履修生の7割以上が目標に到達したと評価している。そして履修生の9割前後は専門科目に興味深く良い授業だと評価している。一方、教養科目に興味深く良い授業としたのは履修生の8割前後である。この違いは、両者の授業の質のみならず、履修生の授業に関する意識にも起因すると考えられる。

教養科目であれ専門科目であれ、授業の成果として最も認められたのは知識技能の習得である。なお、教養科目により人間理解の深化、人間形成の促進及び協働力の向上がなされたという評価もある。レッスンの成果としては、表現力、知識、技術及び学修への意欲が向上させられたことが挙げられている。

## 1. 調査の概要

### (1) レッスンを除く授業科目に関する回答者数（延べ人数）

開講期	所属 ＼ 学年	院	音楽	食文化 現食	食文化 栄養	子ども 教育	短大 音楽	短大 幼教	その他・ 未回答	計
前期	1	2	563	779	970	2220	197	371	141	5763
	2	24	438	739	1043	2094	181	282	136	5610
	3	17	287	502	1047	1286	-	7	239	3711
	4	19	153	124	138	497	6	-	93	866
	未回答	-	7	7	12	10	3	1	24	85
	前期計	62	1520	2093	4110	6492	528	923	357	16035

開講期	所属 ＼ 学年	院	音楽	食文化 現食	食文化 栄養	子ども 教育	短大 音楽	短大 幼教	その他・ 未回答	計
後期	1	8	628	846	1319	1997	227	395	111	5531
	2	14	529	686	1035	1823	150	143	112	4492
	3	2	278	356	469	1163	-	3	111	2382
	4	3	121	60	190	310	-	-	46	730
	未回答	1	2	12	9	12	1	2	25	64
	後期計	28	1558	1960	3022	5305	378	543	405	13199
	年間計	90	3006	4111	6232	11412	765	1204	1038	27858

(2) アンケートを実施した科目数（レッスンを除く）

開講期＼科目種類	教養	専門	計
前期	109	448	557
後期	112	421	533
計	221	869	1090

(3) レッスンに関する回答者数（延べ人数）（音楽学部学生のみ）

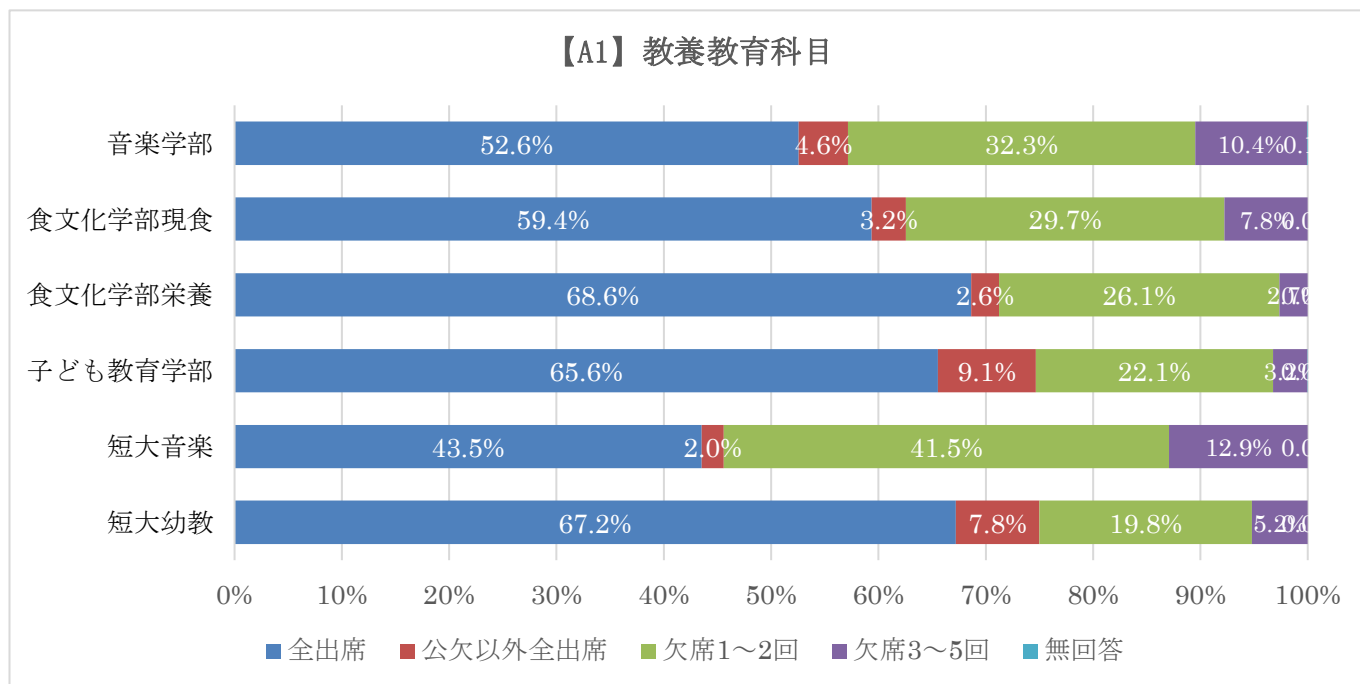
開講期	学年	回答者数（述べ人数）
前期	1	59
	2	37
	3	35
	4	40
	未回答	2
	前期計	173
後期	1	58
	2	39
	3	31
	4	35
	未回答	4
	後期計	167
	年間計	340

## 2. 調査の結果

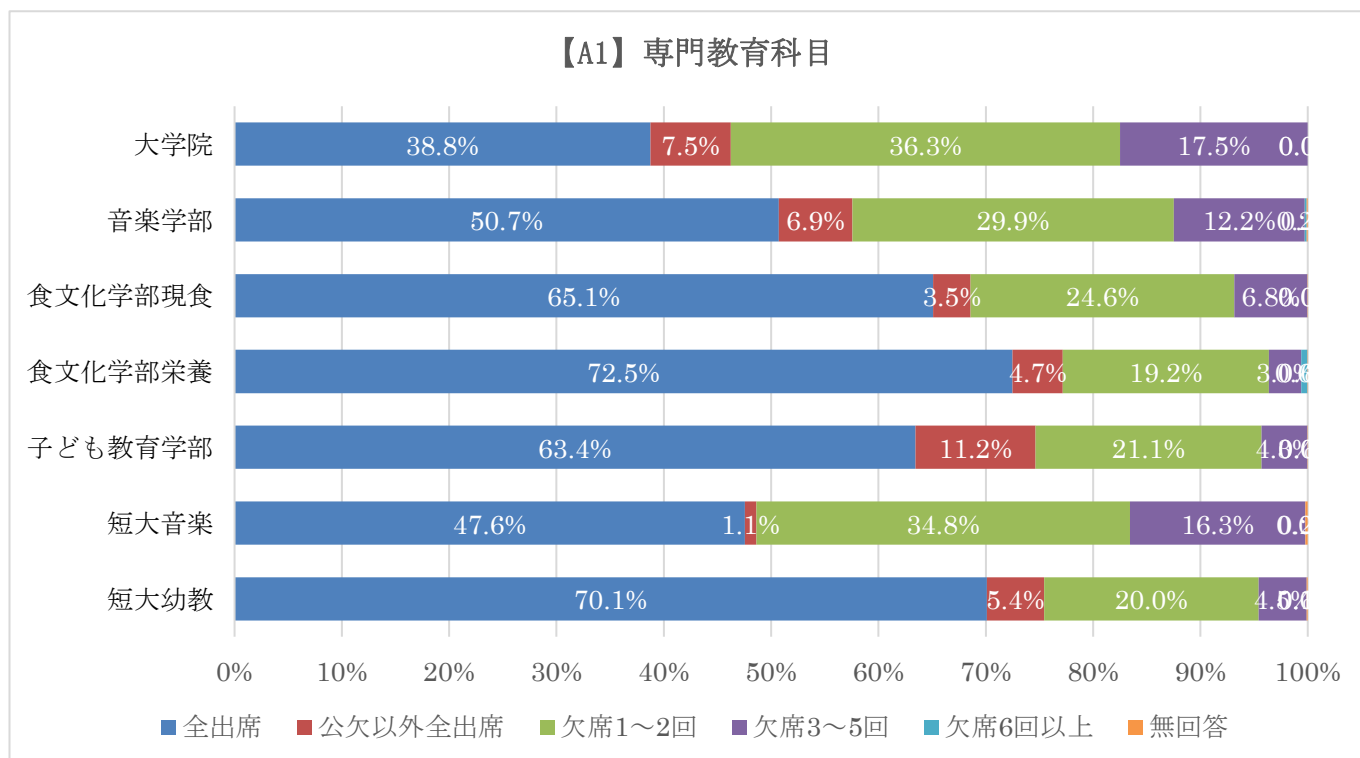
アンケート調査の結果は、次ページ以降の通りである。

## A 授業への取り組みに関する質問

### 1.あなたは授業にどの程度出席しましたか

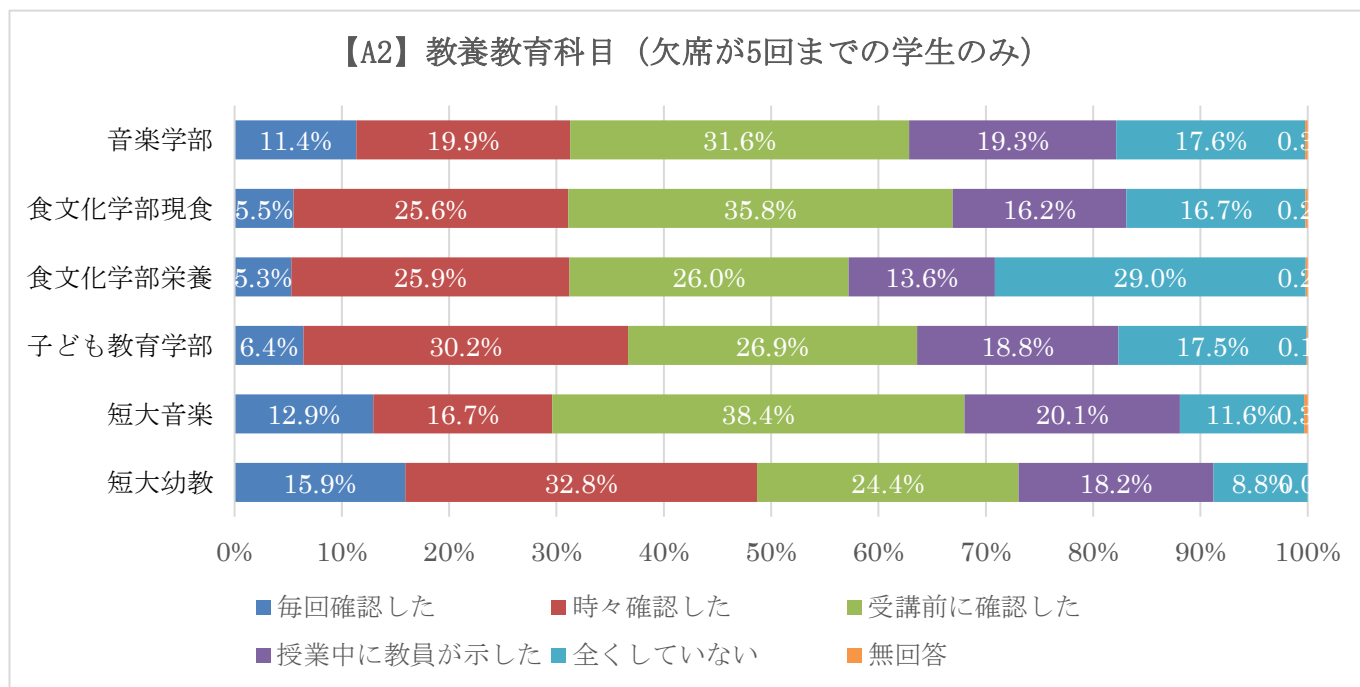


どの学部学科（部局）でも「全出席」という回答が一番多く、「全出席」及び「欠席 1~2 回」の学生の割合は 87%~97%（H30 85%~96%）であり、出席へのまじめさが窺える。ただ、短期大学音楽専攻生の出席率は他の学生の出席率と比べると低いので何らかの手立てが必要と思われる。

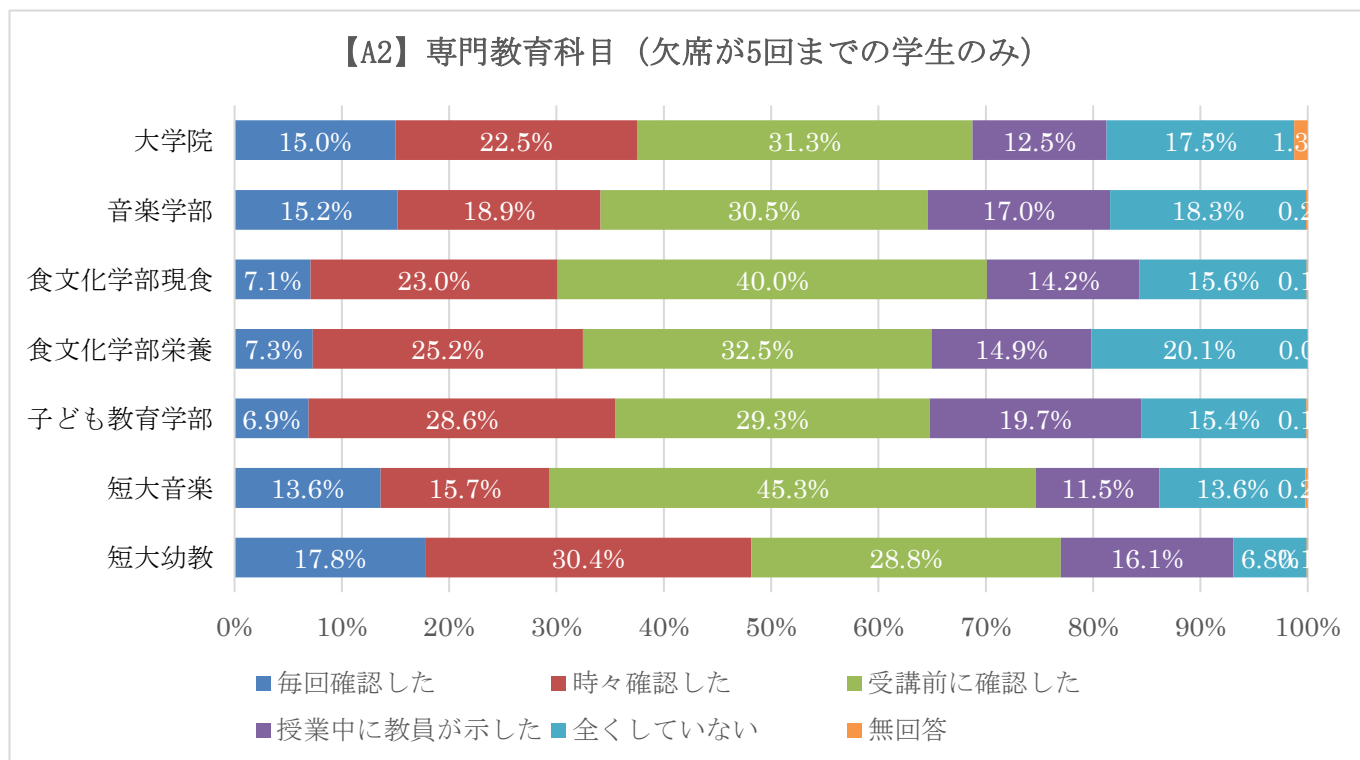


「全出席」または「公欠以外全出席」の割合は、栄養学科生、短大幼児教育専攻生、子ども教育学部生、の順に高かった。「欠席 1~2 回」まで含めると栄養学科生、子ども教育学部生、短大幼児教育専攻生が 96%、現代食文化学科生が 93%と極めて高かった。昨年度と比べて改善が見られたのは大学院と音楽学部であった。

## 2.あなたは、シラバスで授業の到達目標や授業内容について確認しましたか

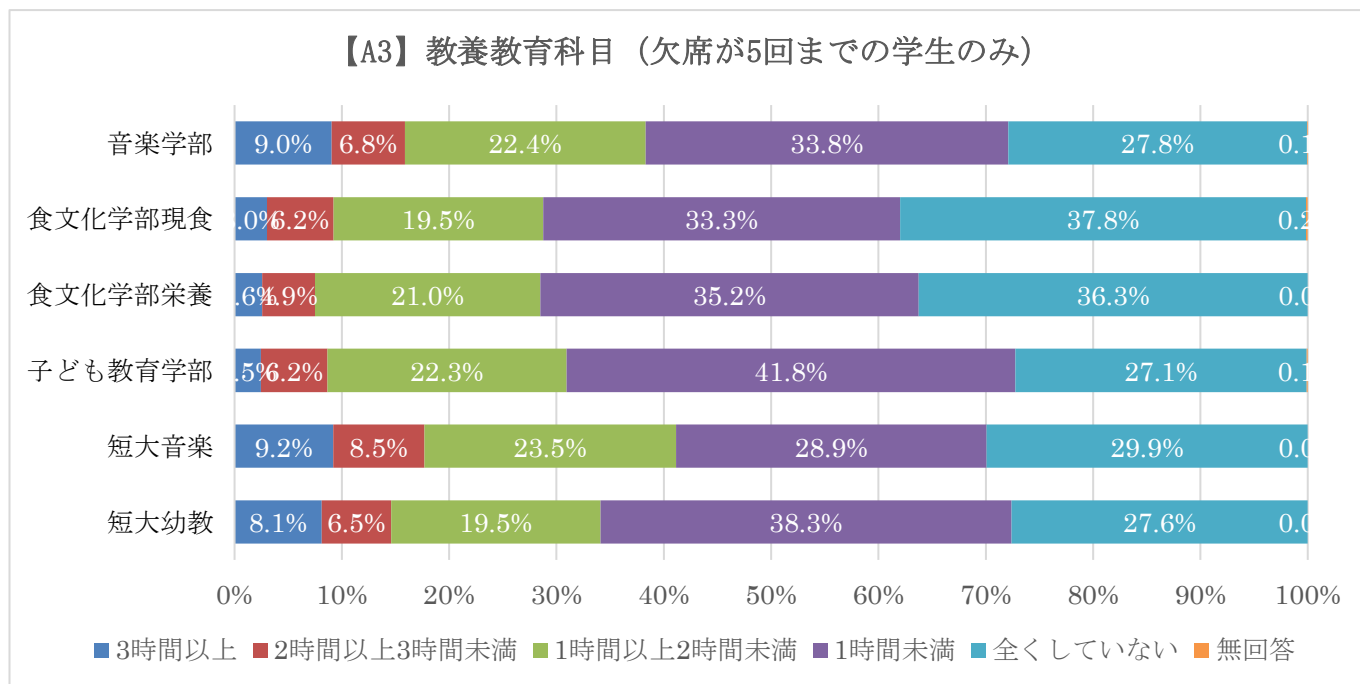


「毎回」事前にシラバスを確認して授業に臨む学生の割合は5%～16%(H30 6%～13%,H29 5%～12%)であり、いずれの学部学科においても非常に少ない。「毎回確認」、「時々確認」及び「(最初の授業の)受講前に確認」を合わせた割合でも57%～73%であり、受け身の学生が多い。

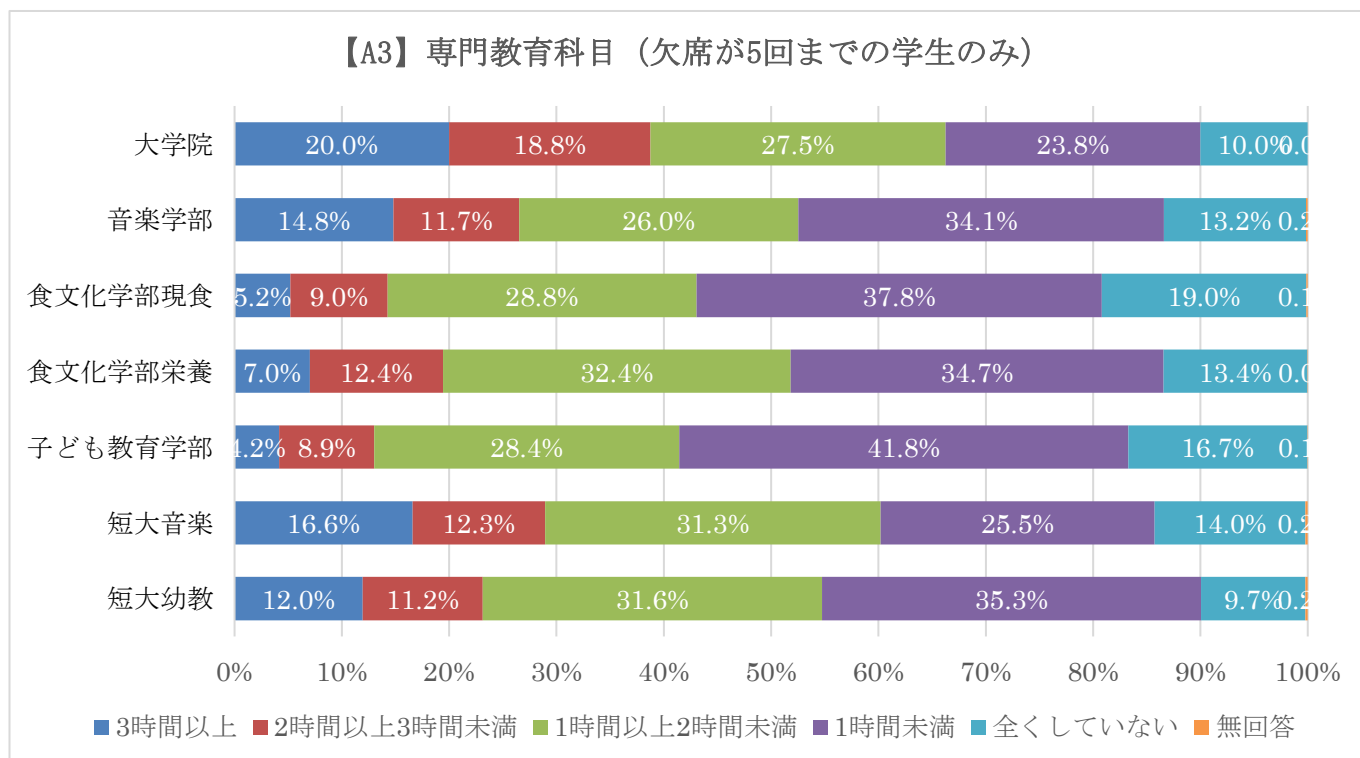


「毎回」事前にシラバスで授業内容等を確認して授業に臨む学生の割合は7%～18%(H30 7%～15%、H29 5%～19%)である。「受講前に確認」まで含めても65%～77%(H30 60%～73%、H29 51%～73%)にすぎず、シラバス確認者は教養科目同様少ない。専門科目に対しても受け身の学生が多いことが窺われる。教員の予告等がないと予習は難しいことがわかる。

3.あなたは一つの授業について1週間あたり予習・復習やレポート課題などのために平均どの程度学修しましたか（演奏系科目では、1日あたりの練習時間としてください。）

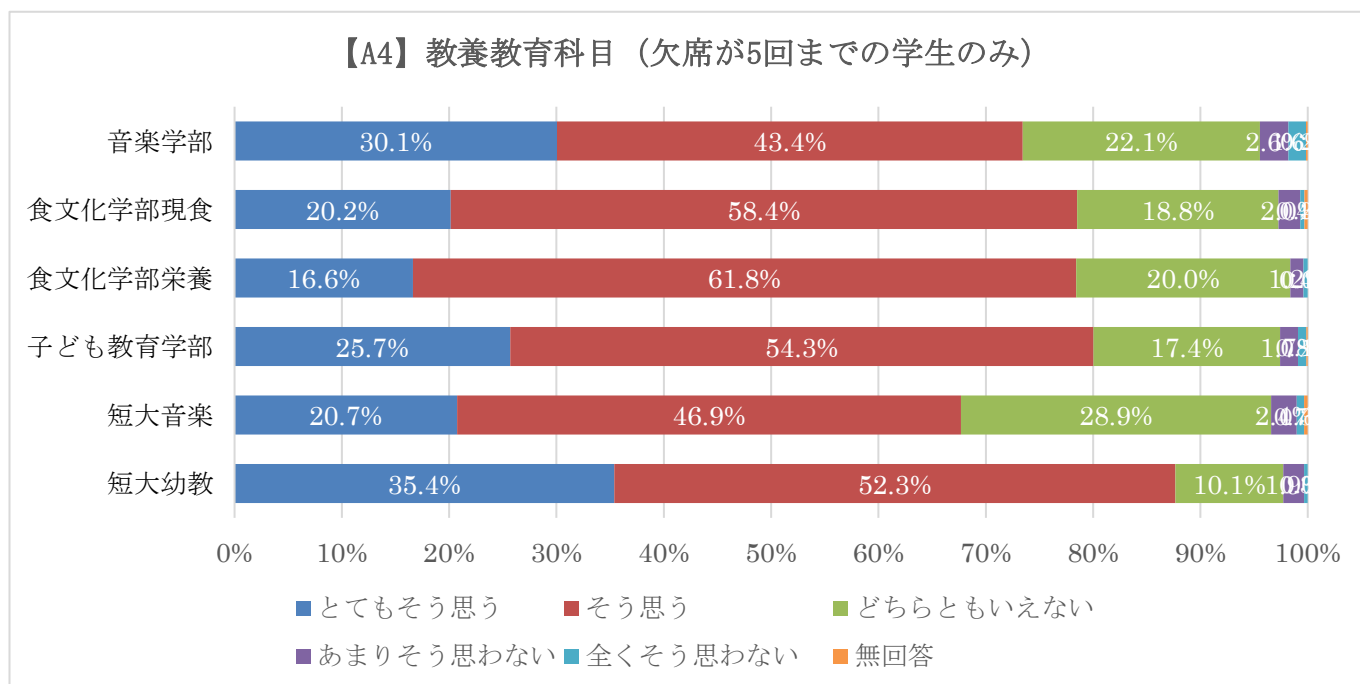


どの学部学科においても「全くしない」の回答率は27%～38%(H30 26%～39%、H29年度 28%～40%)であり、「1時間未満」が29%～42%(H30 30%～39%、H29年度 35%～43%)である。教養教育科目において授業外の学修は依然不十分である。

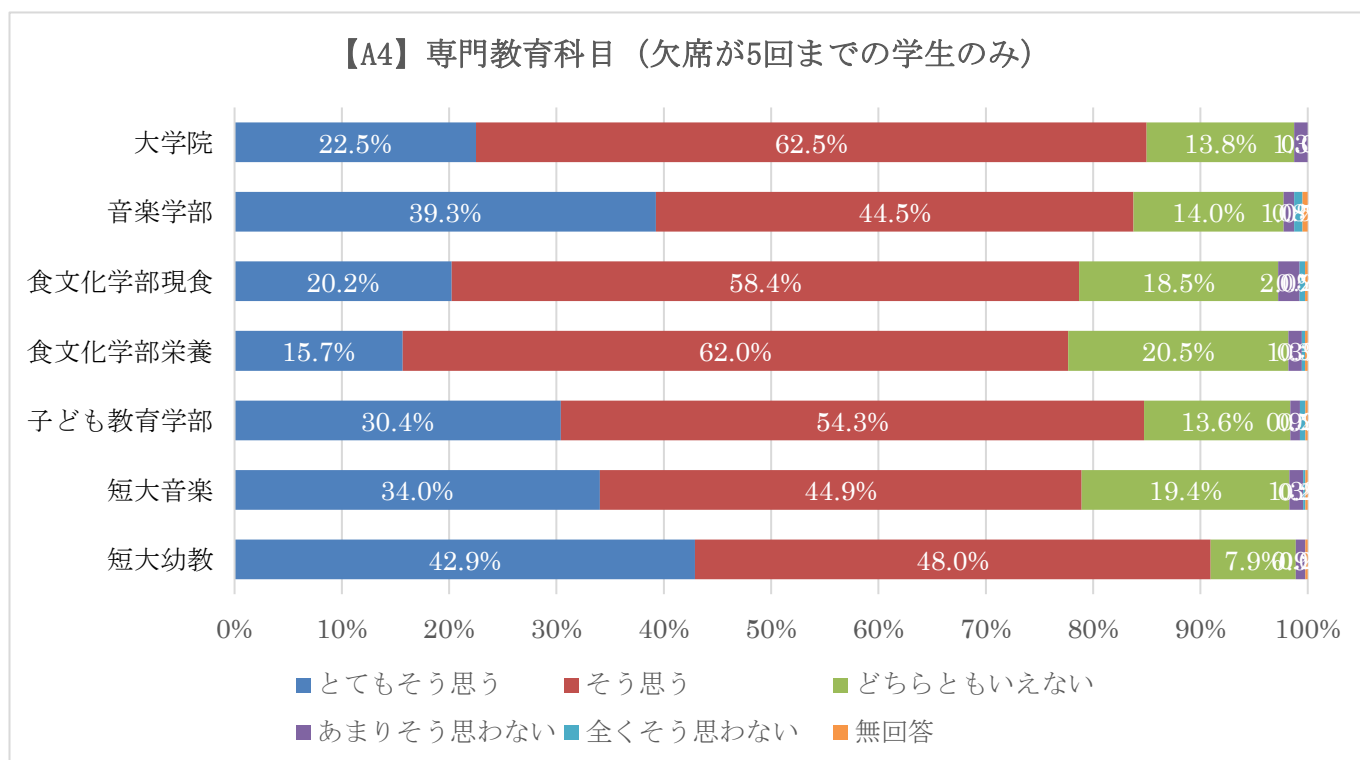


教養科目に関する回答率と比べると、「全くしない」学生の割合は10%～19%と半減し、事前事後の学修時間も増えている。しかし、どの学部学科でも「1時間未満」の学生が26%～42%(H30 34%～42%、H29 31%～43%)いる。今後、教員は授業と授業外の学修を一体的にとらえ、シラバスに具体的に明記したり、授業の中で指示したりする必要がある。

4.この授業への出席状況や取り組み態度から見て、あなたはこの授業を適切に評価できると思いますか



自分自身が授業の評価者として適切かどうかについては「あまりそう思わない」または「全くそう思わない」と考えている学生の割合は1%~2% (H30 2%~3% H29 5%前後)にとどまっている。また、「どちらともいえない」の回答率は10%~29% (H30 12%~29%、H29 24%~39%)と、昨年とほとんど変わらなかった。しかし、それ以前と比べると評価者としての自分を肯定する割合は高まっている。



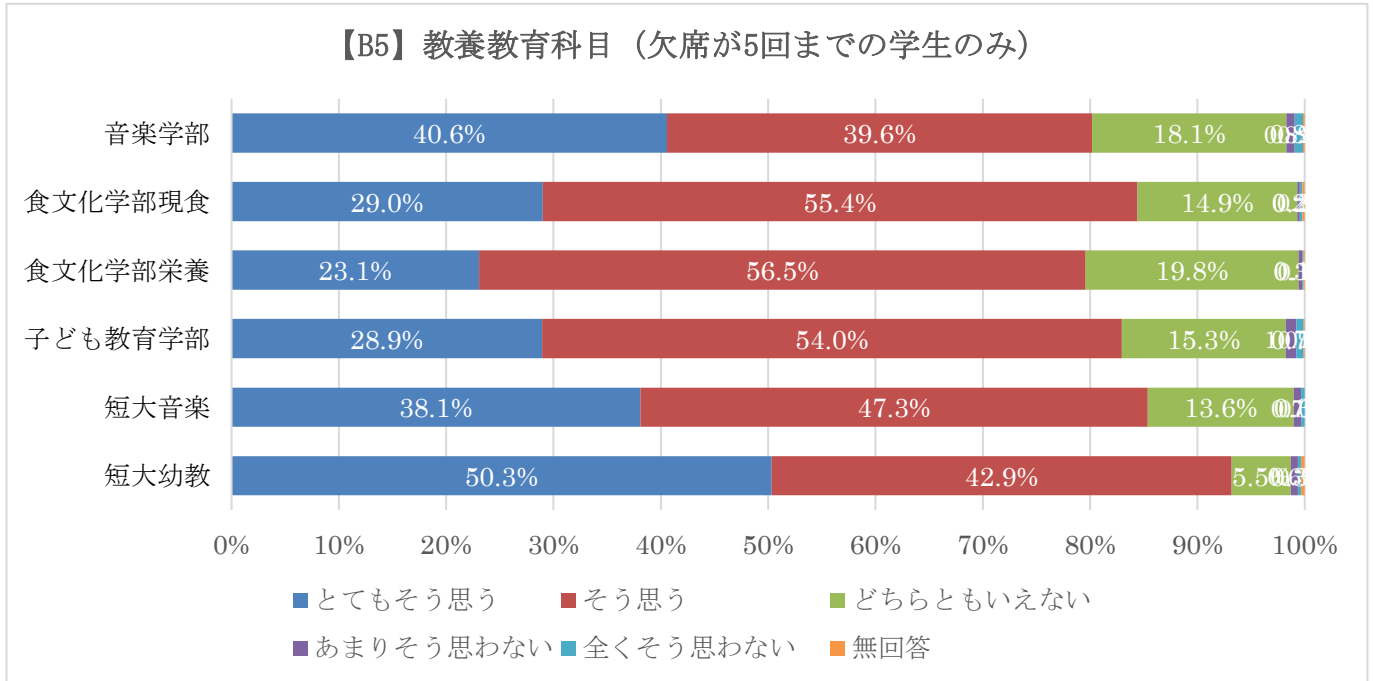
自分が授業の評価者として適切かどうかについて「あまりそう思わない」または「全くそう思わない」と考えている学生の割合は1%~2% (H30 2%~3% H29 同)であり、低い。教養教育科目同様「どちらともいえない」の回答率も8%~21%(H30 14%~26%、H29 14%~26%)と以前と比べて低くなっているため、評価者としての「適切」性についての自己評価は向上している。

※以下の「B 教員の授業態度や授業内容に関する質問」と「C 授業の成果に関する質問」についての結果分

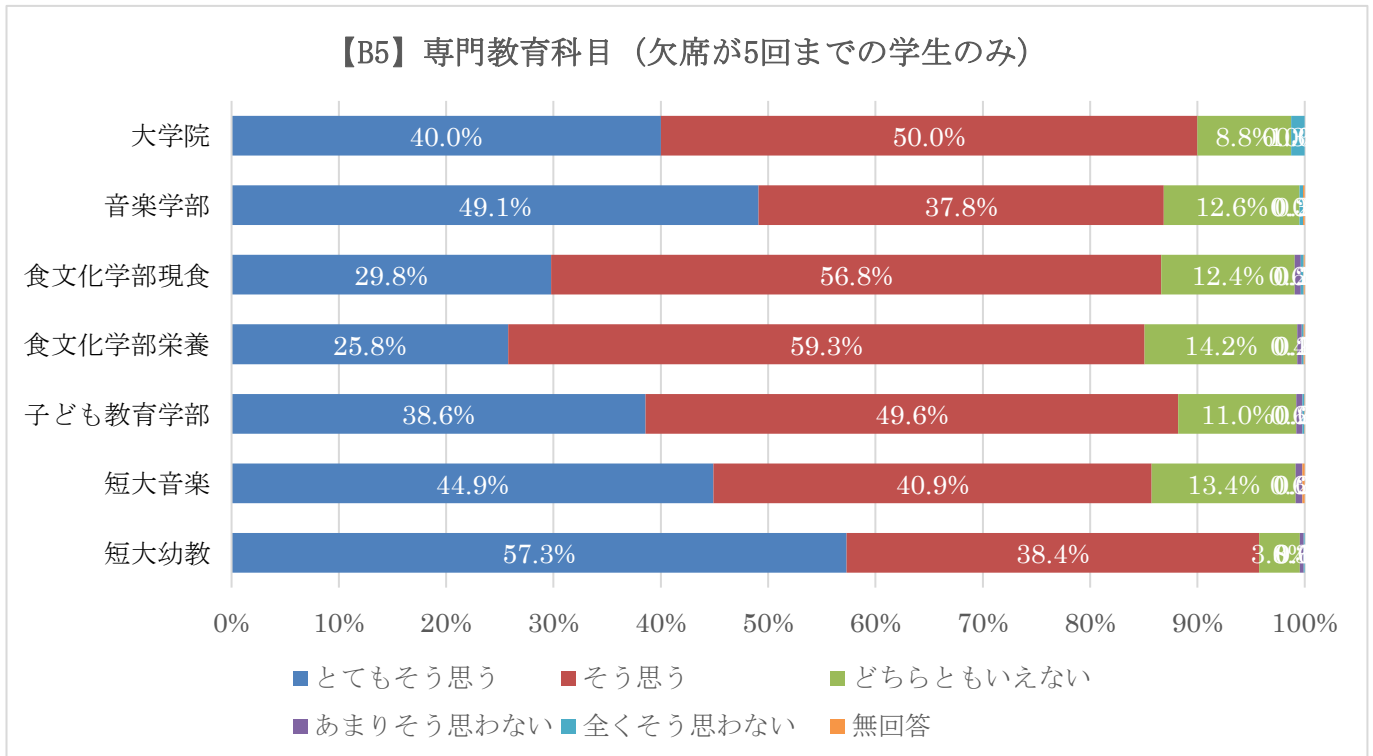
析では、上記「A4 あなたは授業を適切に評価できると思いますか」という質問に「とてもそう思う」または「そう思う」または「どちらともいえない」と回答し評価者としての自己を肯定した者のみを対象とする。

## B 教員の授業態度や授業内容に関する質問

### 5.授業の内容は授業概要（シラバス）の内容に沿っていましたか

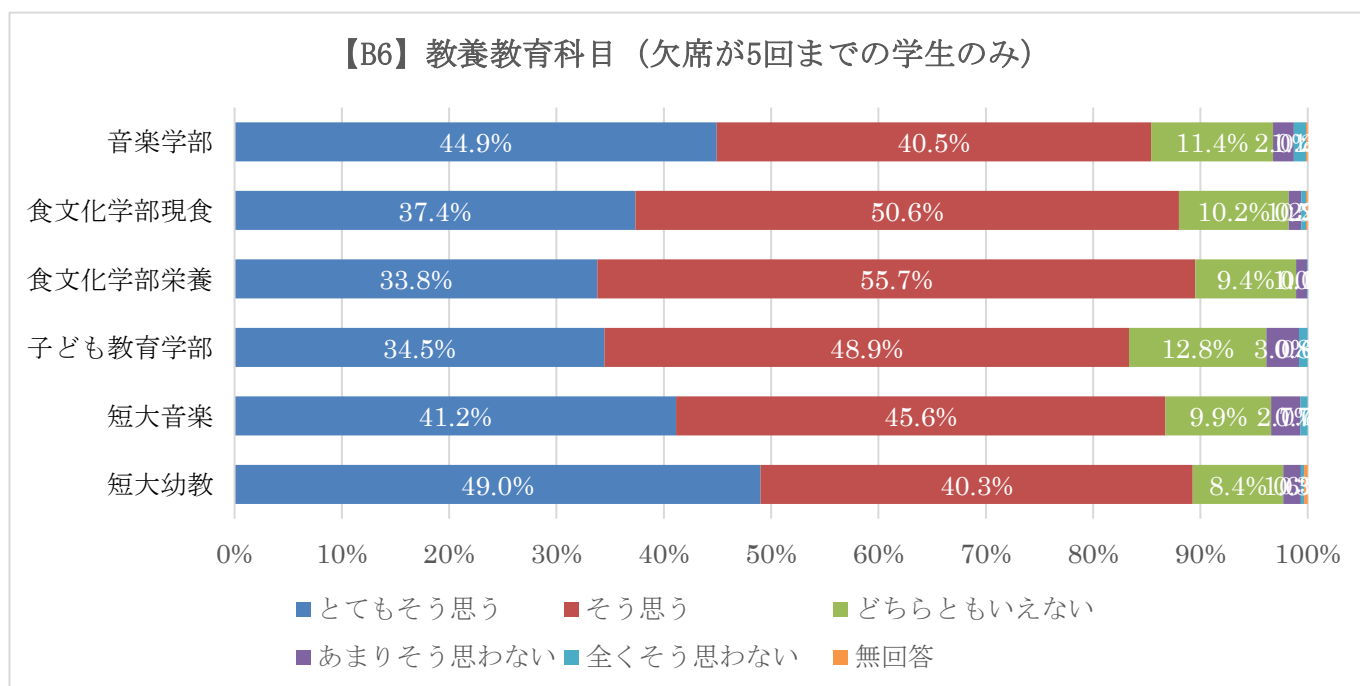


学生の80%～93%（H30 78%～89%、H29 69%～80%）が授業内容は授業概要（シラバス）の内容に沿っていると回答している。シラバスに基づく授業の実施割合は年々増加していることが窺える。

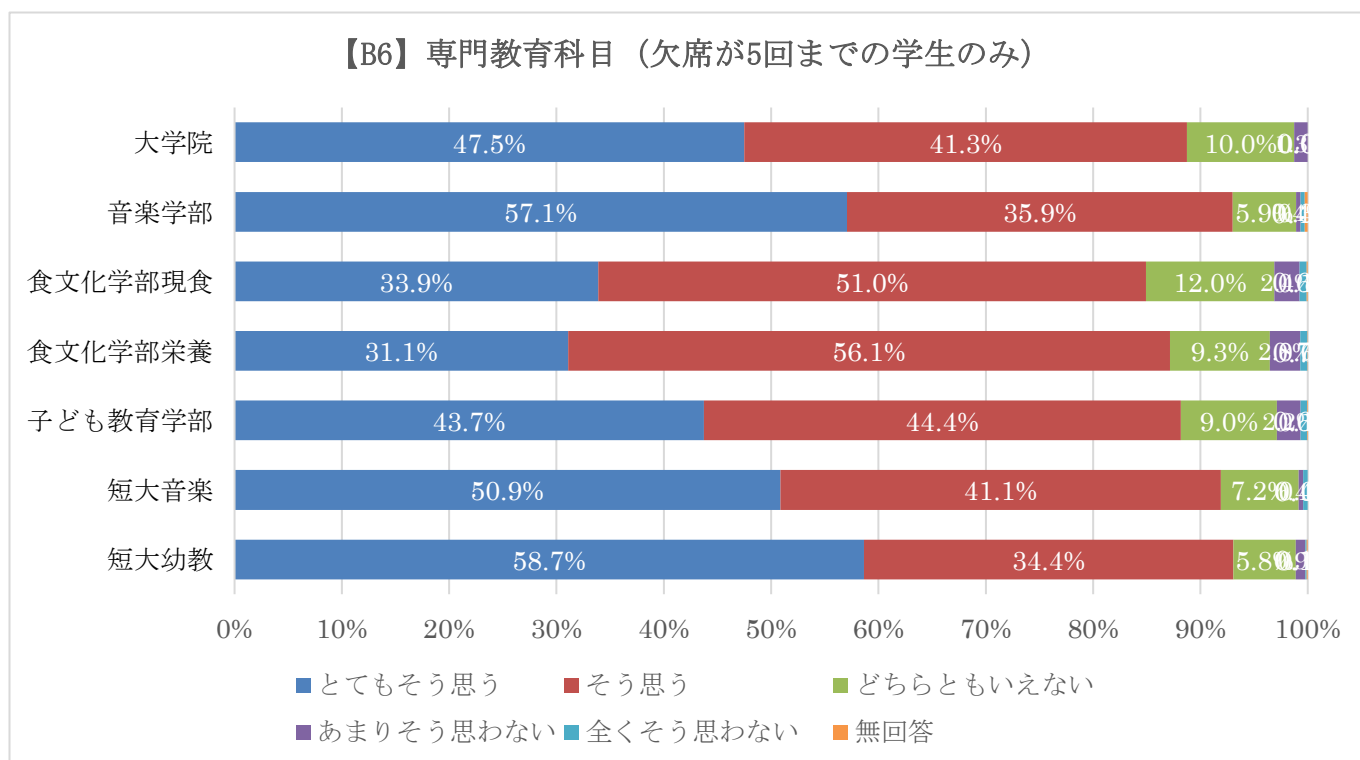


学生の85%～96%（H30 85%～91%、H29 78%～88%）が、授業内容は授業概要（シラバス）の内容に沿っていると回答している。教養科目と同様、シラバスに準拠した授業が展開されている結果だと考えられる。

## 6.テキスト・配付資料・板書・パワーポイントの提示は適切でしたか



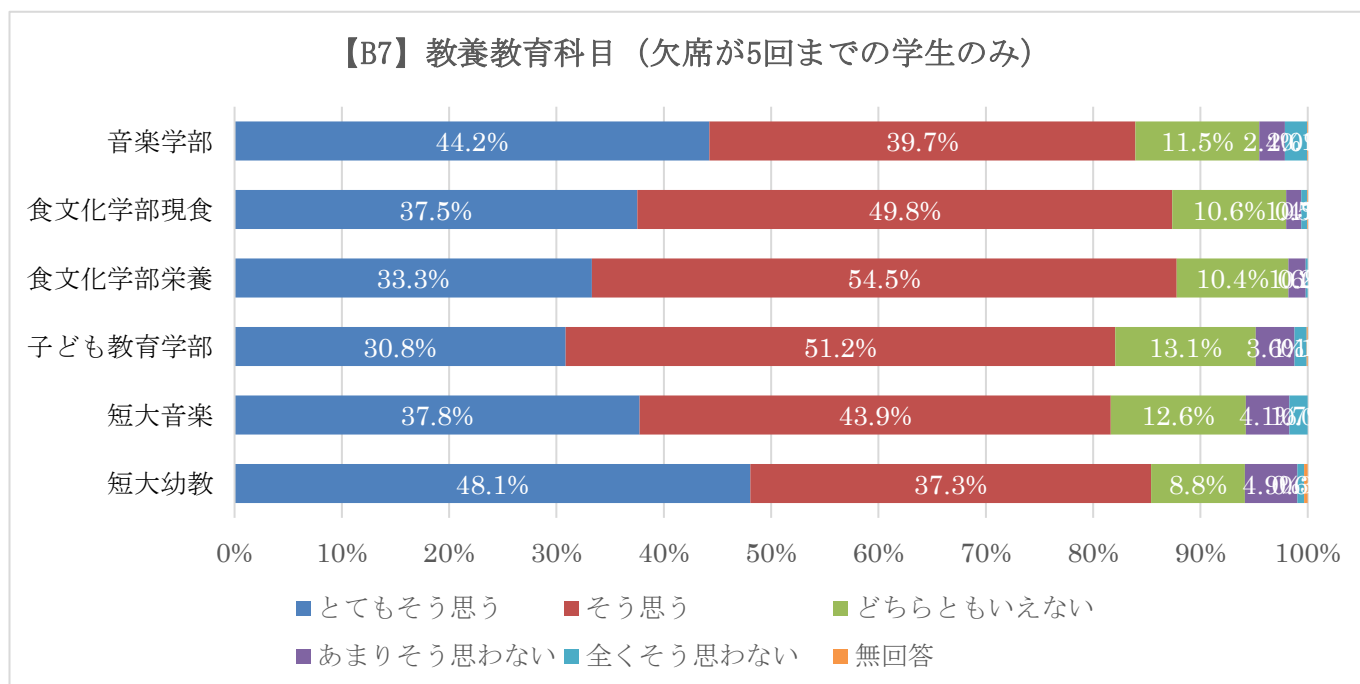
テキスト・配付資料・黒板またはホワイトボードによる授業内容の提示は適切（「とてもそう思う」または「そう思う」と回答している学生の割合は83%～90%（H30 83%～90%、H29 73%～89%）であり、昨年同様概して高い。



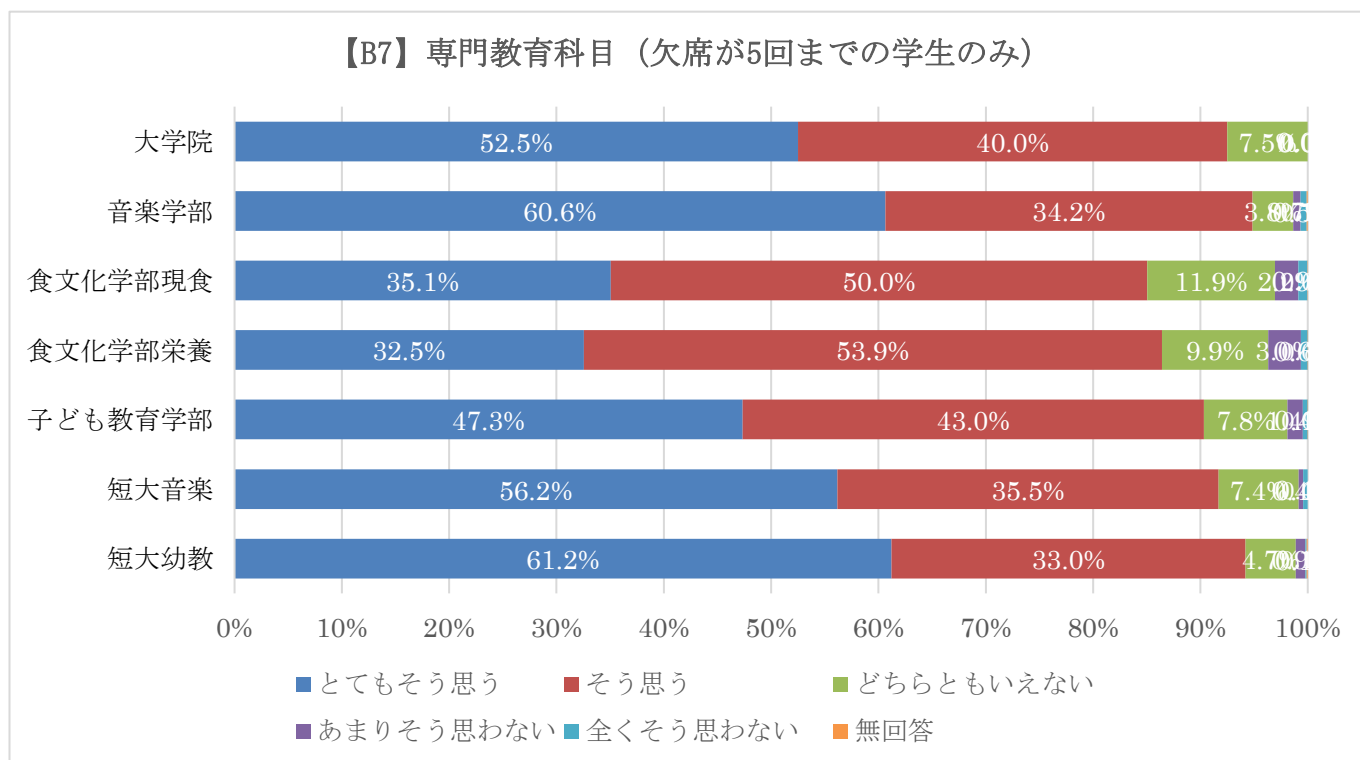
学生の90%前後が「とてもそう思う」または「そう思う」と回答していることから、専門科目におけるテキスト・配付資料・板書・パワーポイントによる授業内容の提示は適切だといえる。特に音楽学部及び短大幼児教育においては肯定的な回答率が93%を超えており、授業方法に対して高い評価が与えられている。



7.理論や考え方、専門用語などがわかりやすく説明されましたか。または演奏の技術や音楽表現について分かりやすく説明されましたか

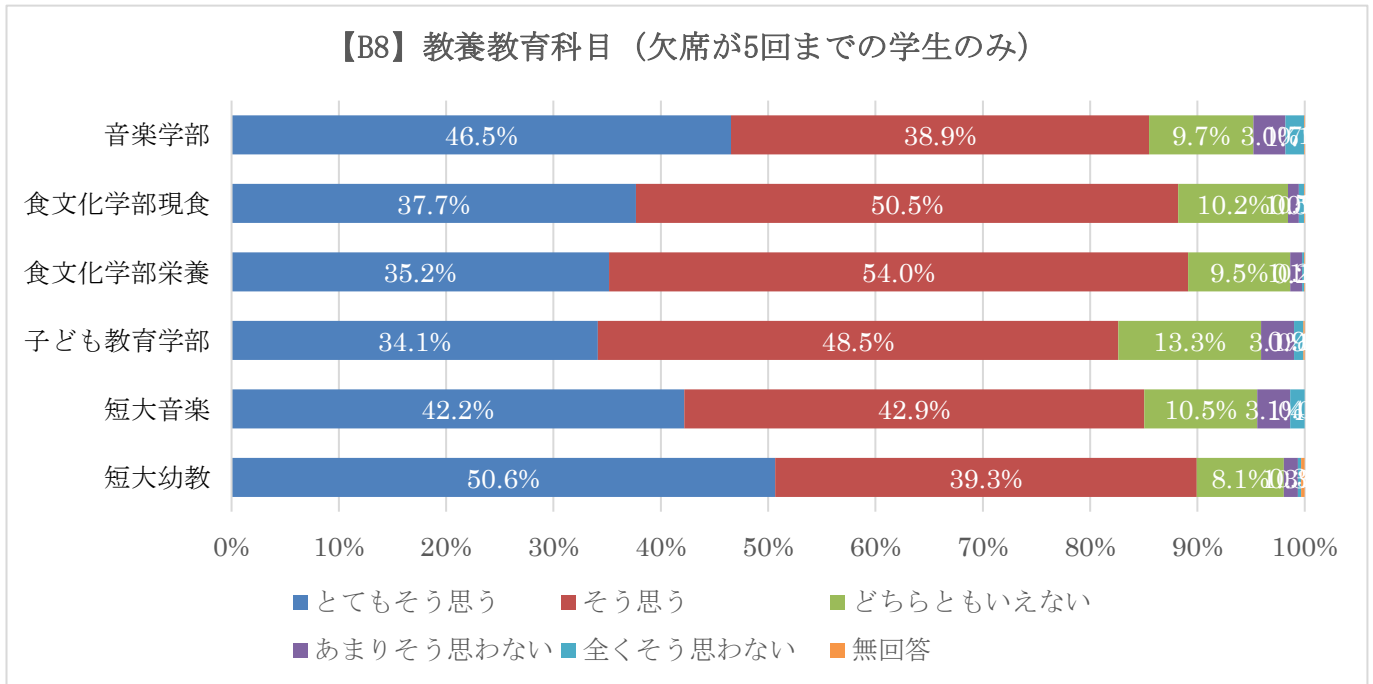


学生の81%～88% (H30 79%～89%、H29 69%～88%)が理論、考え方、専門用語、演奏技術及び音楽表現について分かりやすく説明されたと評価している。「とてもそう思う」または「そう思う」の回答率において部局間の差は年々縮まってきている。

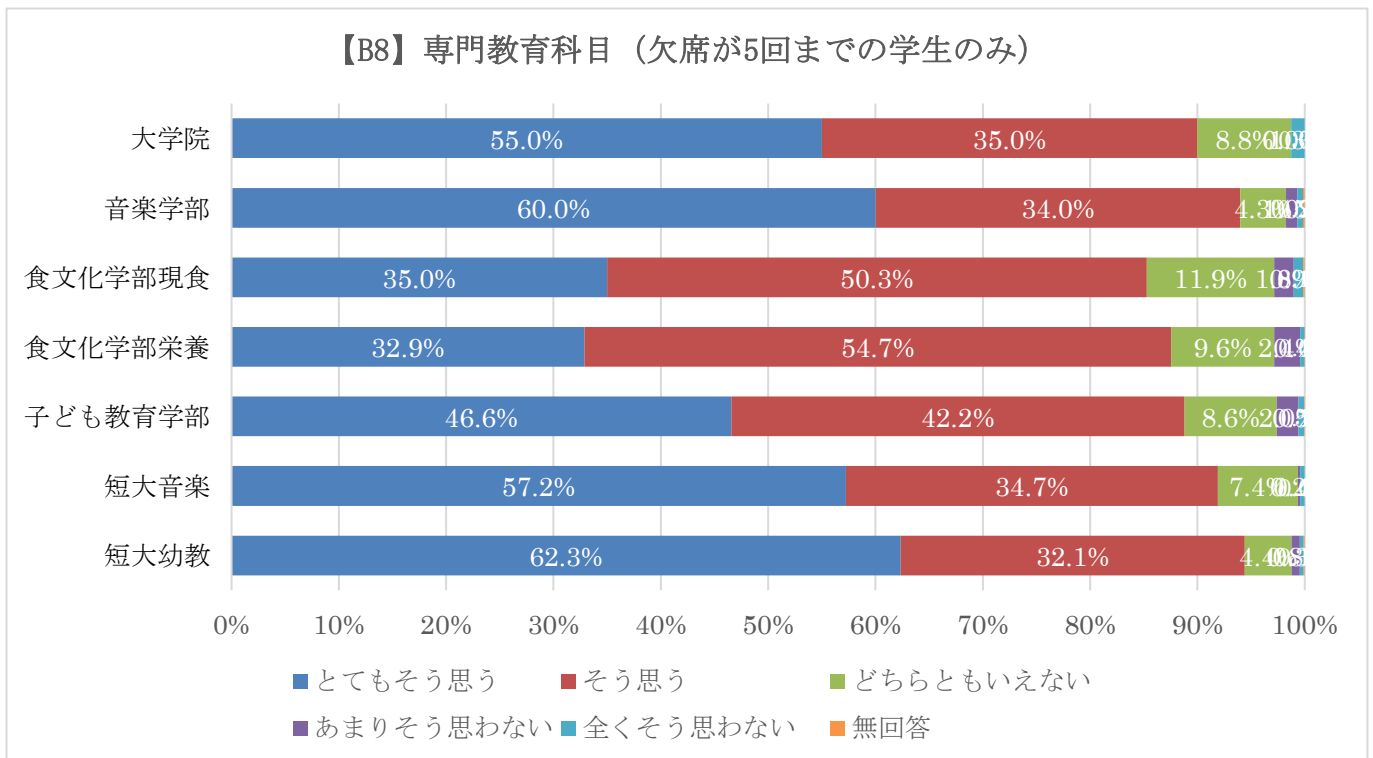


学生の85%～95%(H30 86%～95%、H29 87%～95%)が「とてもそう思う」または「そう思う」と回答しており、理論、考え方、専門用語、演奏技術及び音楽表現について、昨年同様、分かりやすく説明されたと評価している。これらの肯定率は教養教育科目に関する肯定率より高い。専門科目を学ぶ学生の姿勢と実態に合った教育方法がとられている結果だと考えられる。

## 8.授業方法の工夫や時間配分は適切でしたか

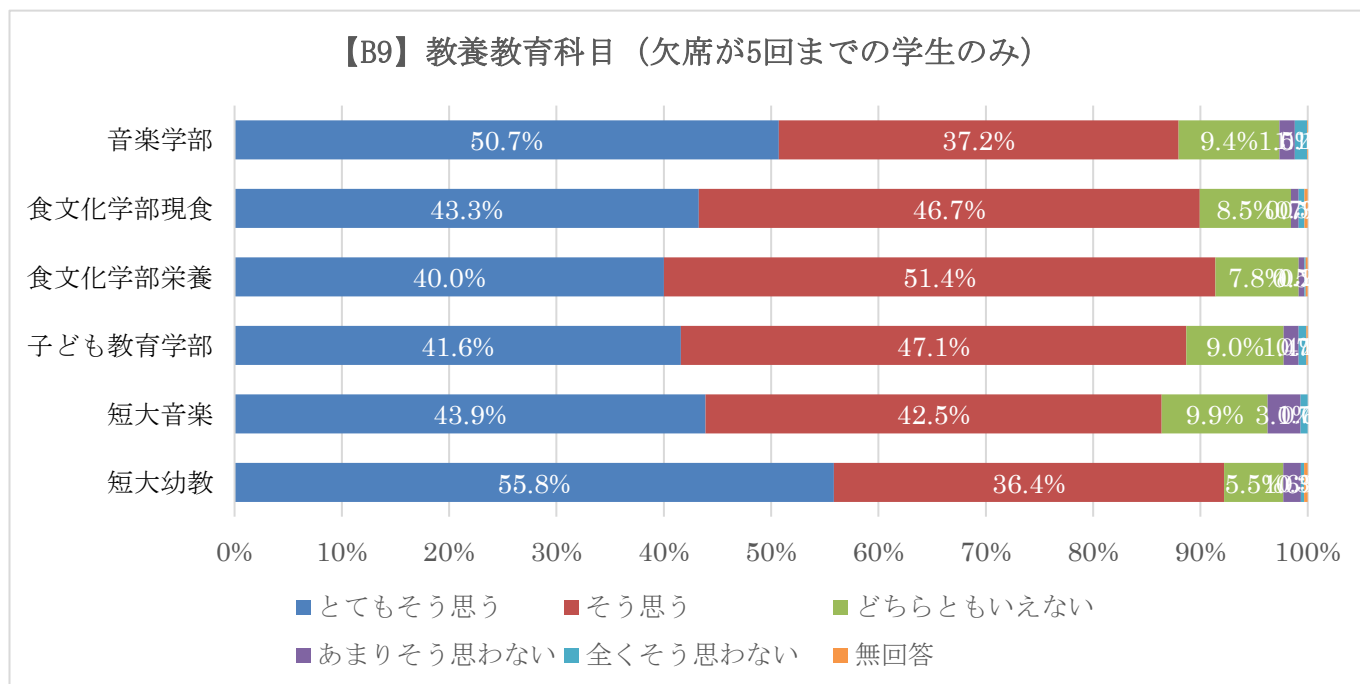


授業方法の工夫や時間配分の適切さについて「とてもそう思う」または「そう思う」と回答している学生の割合は83%～90%（H30 82%～90%、H29 76%～88%）と昨年同様概して高い。また、部局間の評価の差も縮小した。

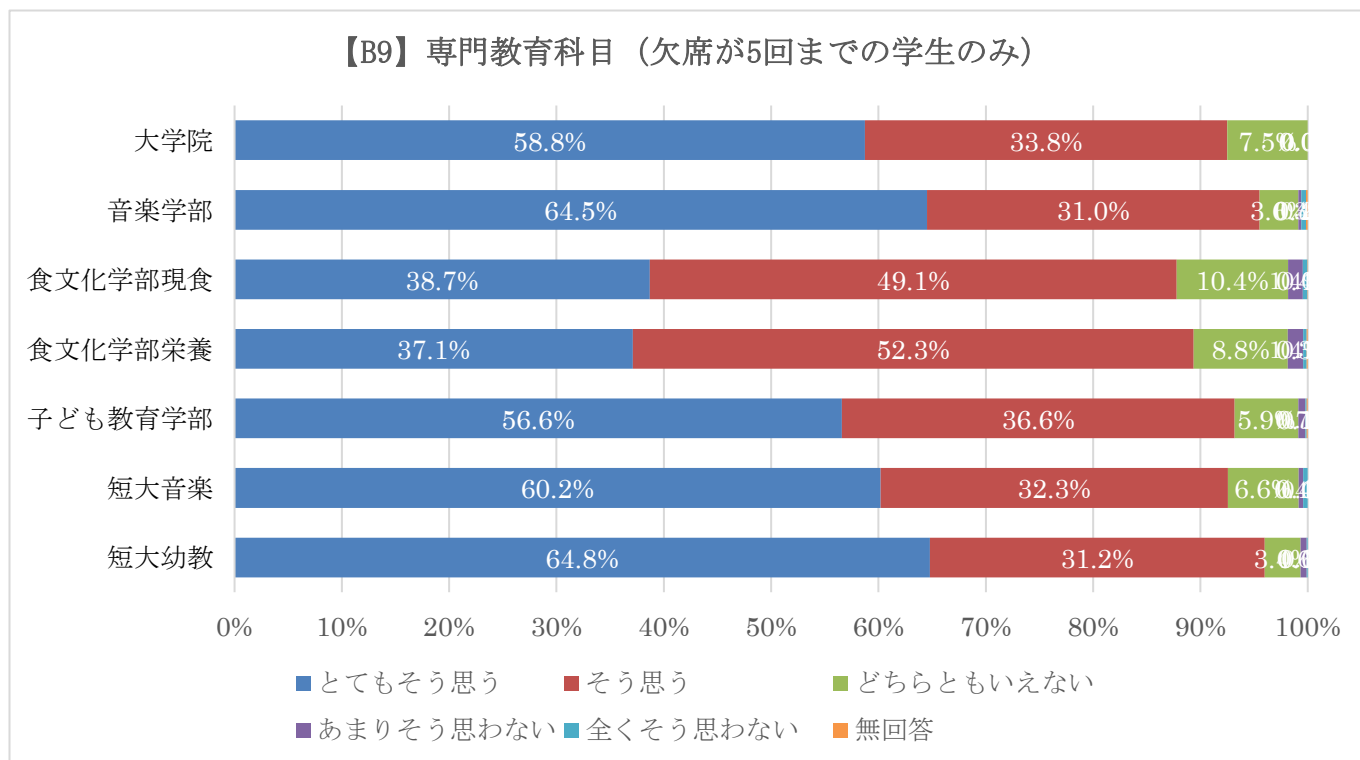


学生の85%～94%（H30 85%～95%、H29 87%～95%）が専門科目における授業方法や時間配分の適切性に関して「とてもそう思う」または「そう思う」と回答しており、昨年同様肯定率は高い。また、学生は専門科目の授業方法や時間配分の方が教養教育科目のそれらより適切であると評価している。中でも音楽学部と短大幼児教育専攻における評価は、説明のわかりやすさを尋ねたB7の結果同様高い。

## 9.この授業に対する担当教員の意欲や熱意を感じましたか

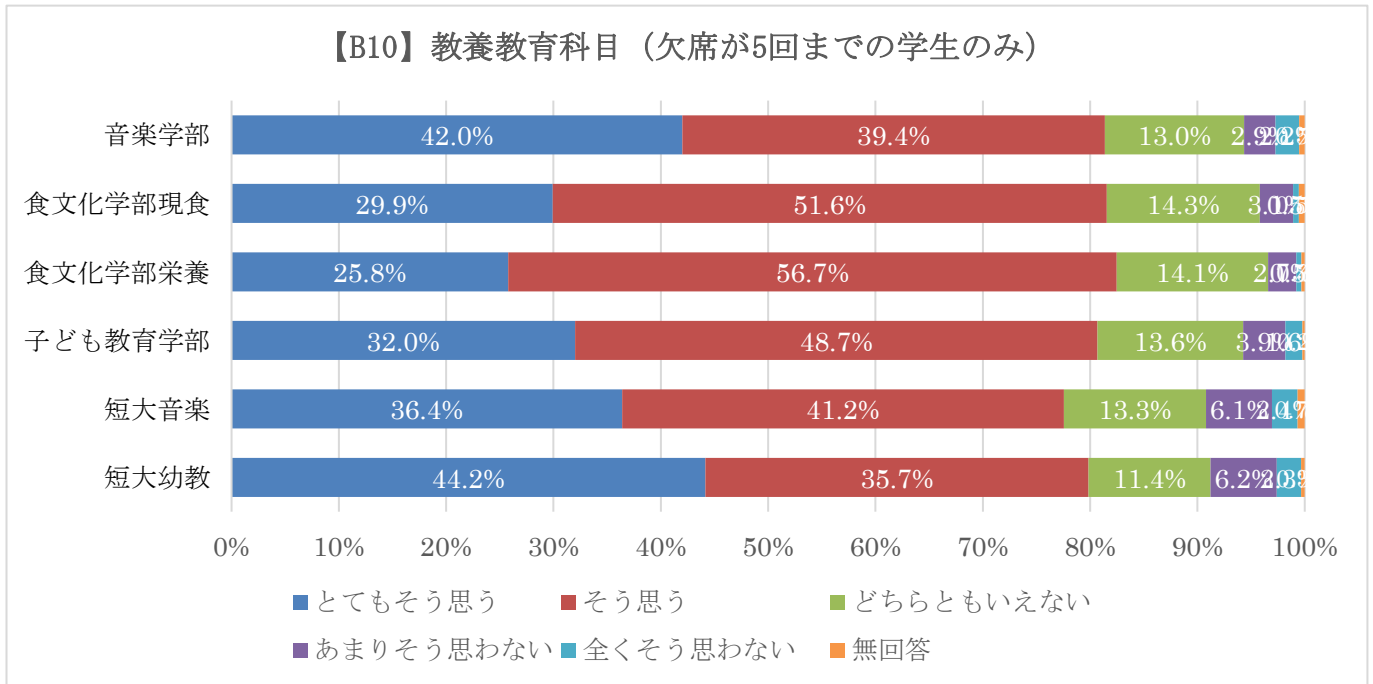


学生の86%～92%（H30 85%～92%、H29 75%～92%）が「とてもそう思う」または「そう思う」と回答しており、学生は教員の授業に対する意欲や熱意を感じている。また、平成29年度の結果と比べると、どの部局においても肯定的な回答率が上昇し、部局間の評価に関する差も縮まった。

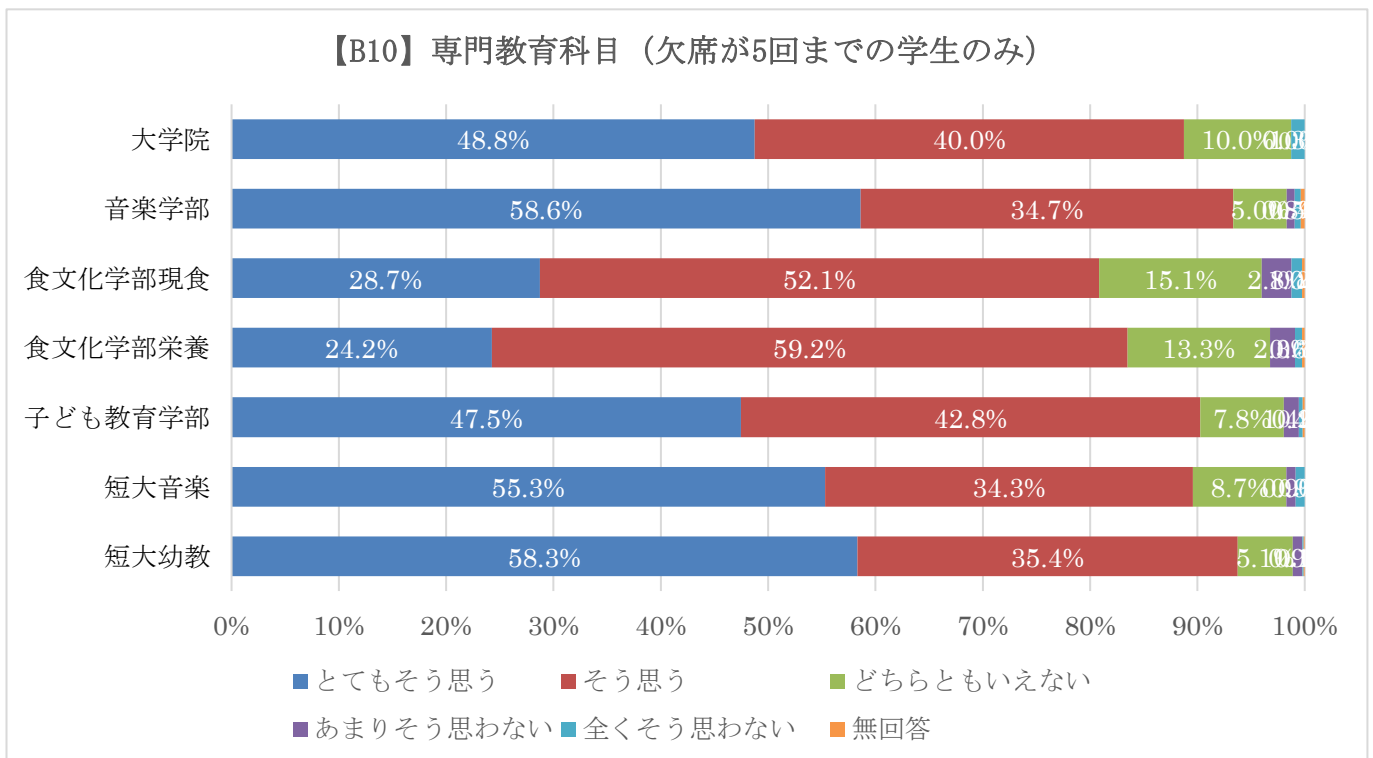


専門科目の担当教員に意欲や熱意があるかという問いに対して、学生の89%～96%（H30 88%～95%、H29 89%～95%）が「とてもそう思う」または「そう思う」と回答しているため、ほとんどの学生がこれまで同様、担当教員の授業に対する姿勢に意欲や熱意を感じている。

## 10.授業内容はよく理解できましたか



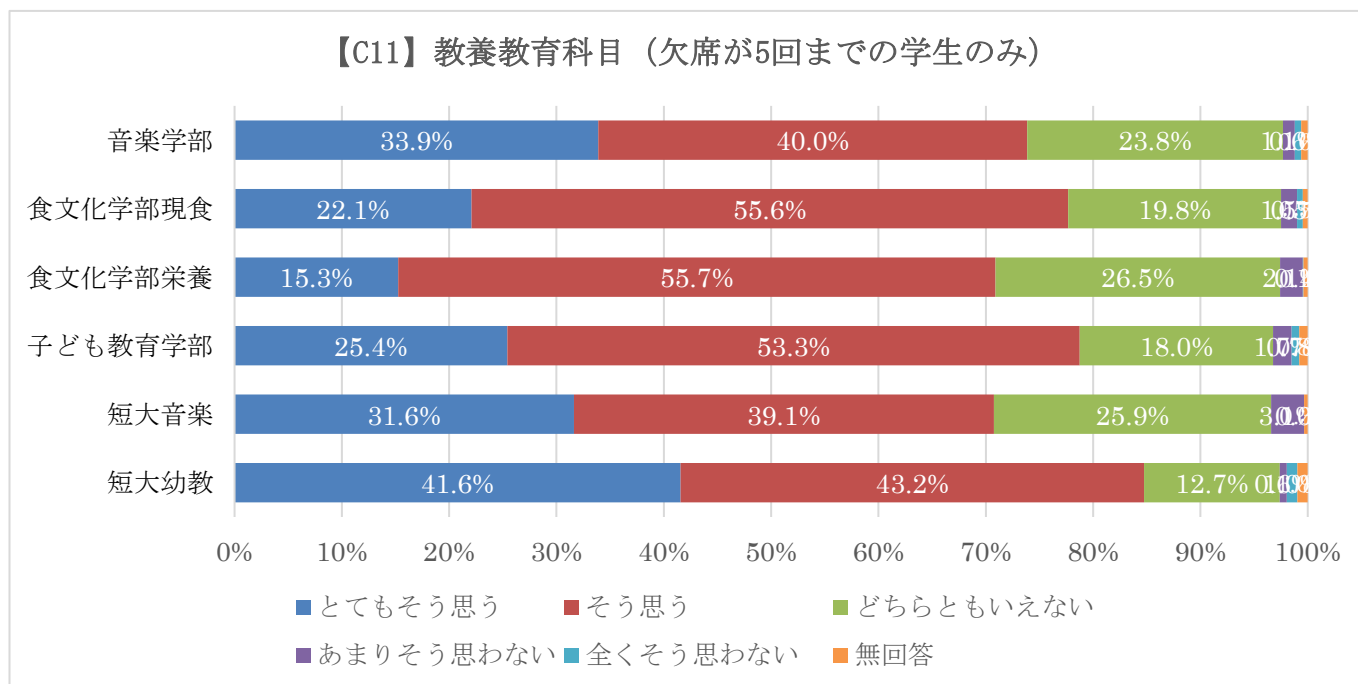
授業内容の理解度については、学生の78%～83%（H30 78%～87%、H29 68%～84%）が「よく理解できている」または「理解できている」と回答しており、学生の理解度は概ね良好である。授業改善が全体的に進んでいる結果と考えられる。ただ、短大において「あまりそう思わない」及び「全くそう思わない」の割合が他の部局のそれより多いのが気になる。



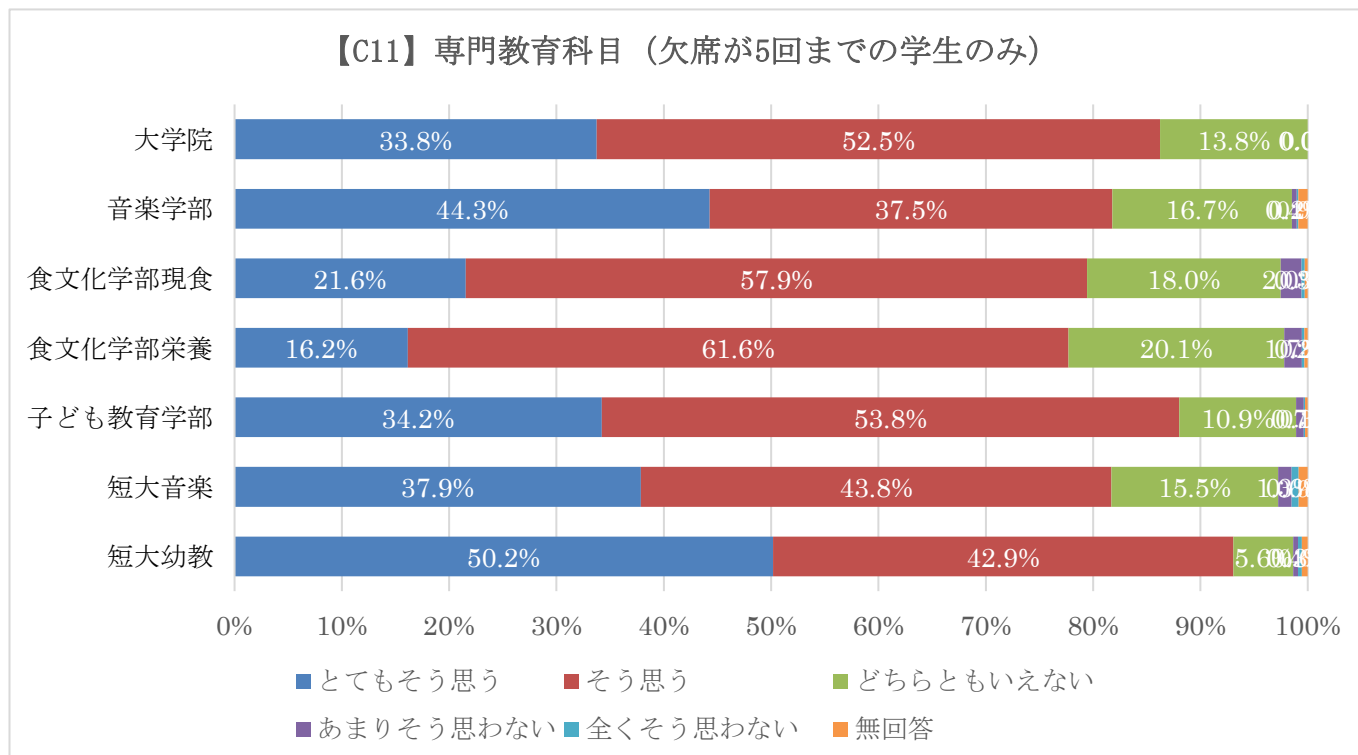
専門科目の授業内容の理解は指導方法との関連が深いと思われるが、「全くそう思わない（全く理解できない）」と否定的に回答した学生は僅かである。教養科目に関する理解度と比べると、専門科目に関する理解度は全体的に高い。ただ、食文化学部の両学科において「とてもそう思う」という強い肯定感を示す学生の割合は他の部局の学生の割合より低い。

## C 授業の成果に関する質問

### 11. あなたはこの授業のシラバスに示している到達目標に達しましたか

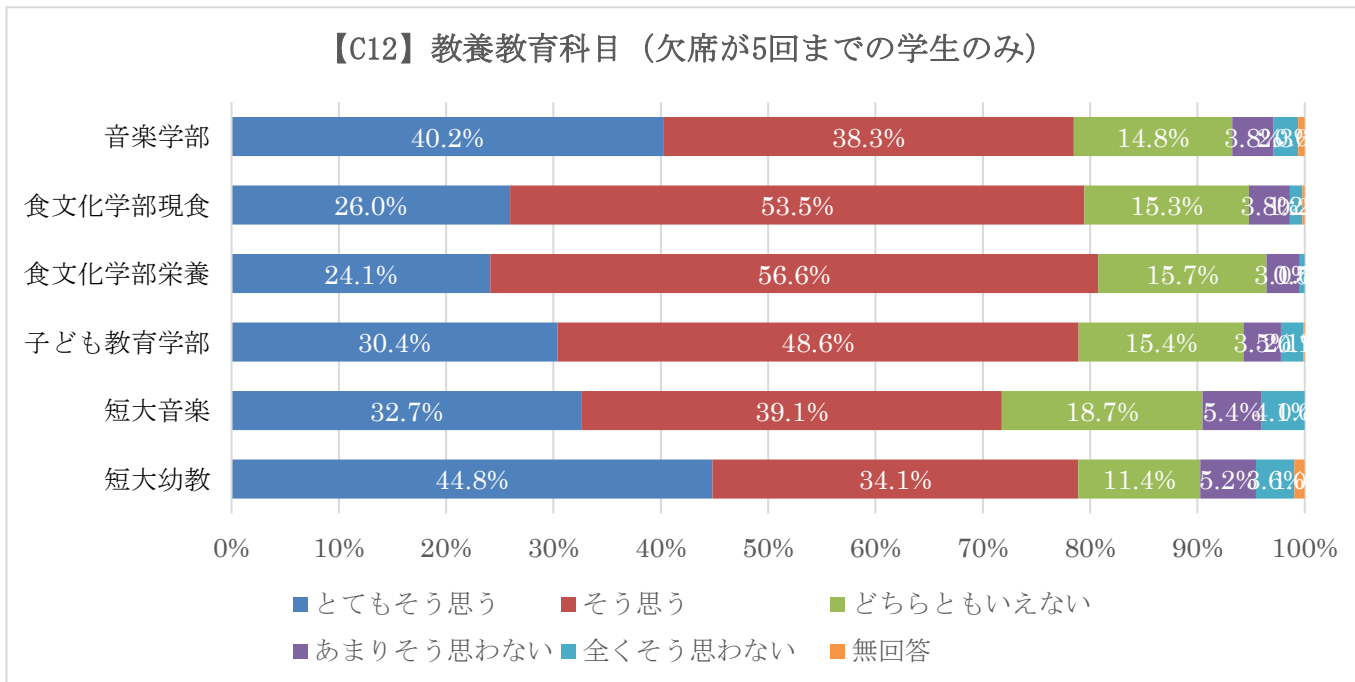


教養科目に関する「とてもそう思う」または「そう思う」という肯定的回答率（到達率）の合計は71%～85%（H30 68%～82%、H29 56%～72%）である。したがって、学生は概ね目標に達したと認識しており、平成29・30年度の到達率と比べると到達率は全体的に上昇している。実際に向上した部局は、食文化学部現代食文化学科、子ども教育学部、短大音楽専攻及び短大幼児教育専攻である。到達率が上昇した部局は、授業の展開や学生の意識などが改善された結果であろう。一方、到達率が下降した部局は対策が必要である。

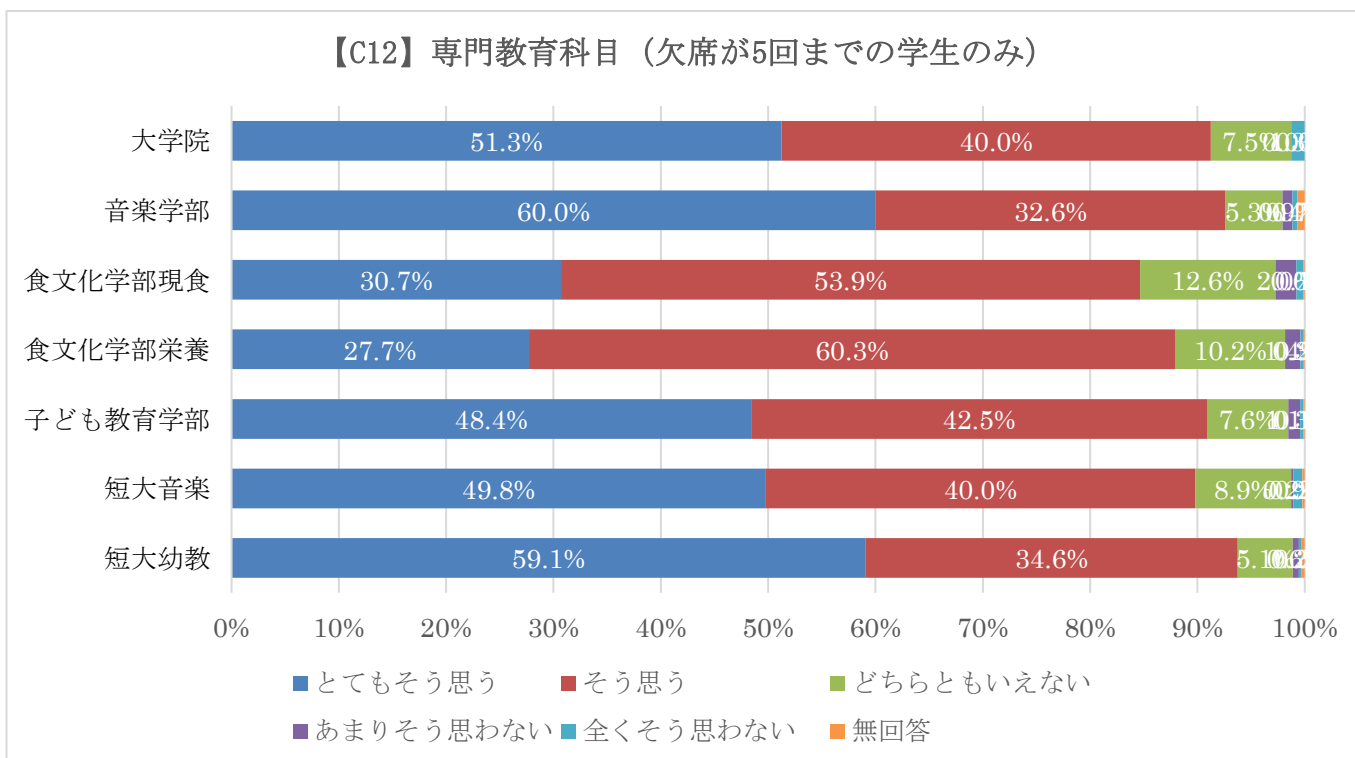


専門科目における目標への到達を問う問いに対する「とてもそう思う」または「そう思う」という肯定的回答率（到達率）の合計は78%～93%（H30 60%～86%、H29 62%～83%）である。平成29・30年度の結果と比べると、到達率は大きく上昇している。大学院生の到達率は平成28年度からの3年間は60%前後で推移していたが、令和元年度は86%に改善された。改善への真摯な取り組みの結果と思われる。

## 12. この授業の内容は興味深いものでしたか

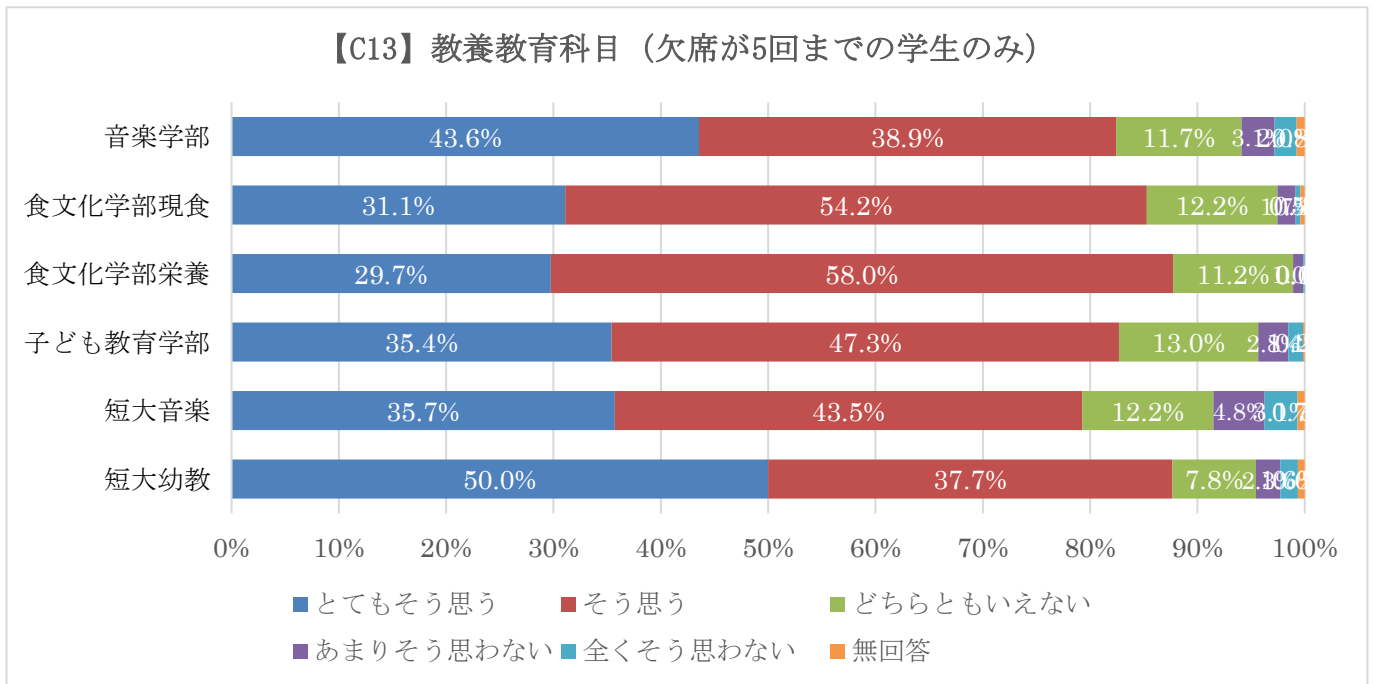


教養科目に関して「とてもそう思う」または「そう思う」という肯定的回答率の合計は72%～81%（H30 70%～86%、H29 66%～83%）である。平成29・30年度には肯定的回答率が上昇傾向にあったが、令和元年度には短期大学音楽専攻を除く5部局で肯定的回答率が微減している。80%前後の高い肯定率だが、改善の余地はある。また、短期大学音楽専攻には、他部局の水準に近づくための取り組みが必要である。

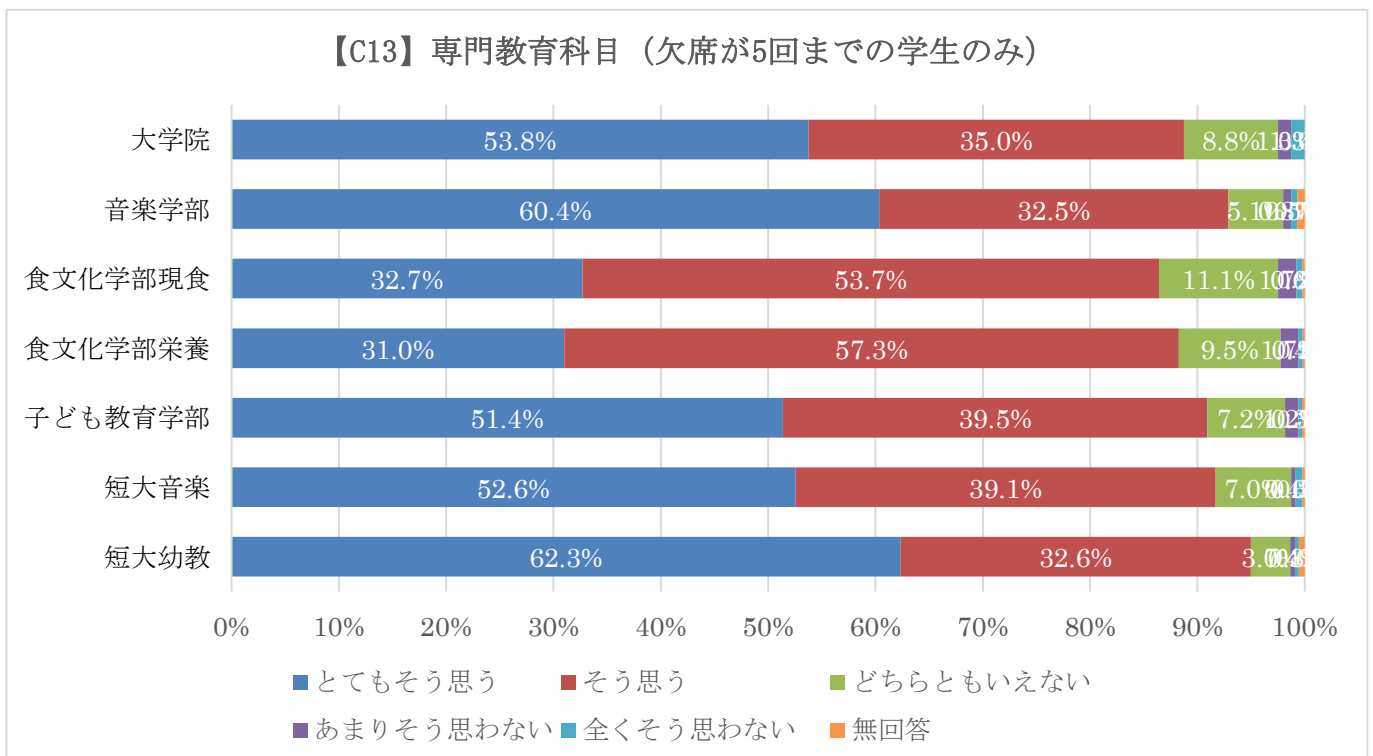


専門科目の興味深さに関する「とてもそう思う」または「そう思う」という肯定的回答率の合計は85%～94%（H30 85%～97%、H29 85%～95%）である。したがって、この4年間9割前後の学生が、履修した授業を興味深かったと評価していることになる。この高い評価は、教養科目の興味深さに関する評価と比較すると、学生の教養の修得よりも専門的知識・技術を習得したいという要求の現れであると考えられる。それとともに、各部局で興味を抱かせる専門教育が実施されている証であると思われる。

### 13. この授業は全体として良い授業であったと思いますか

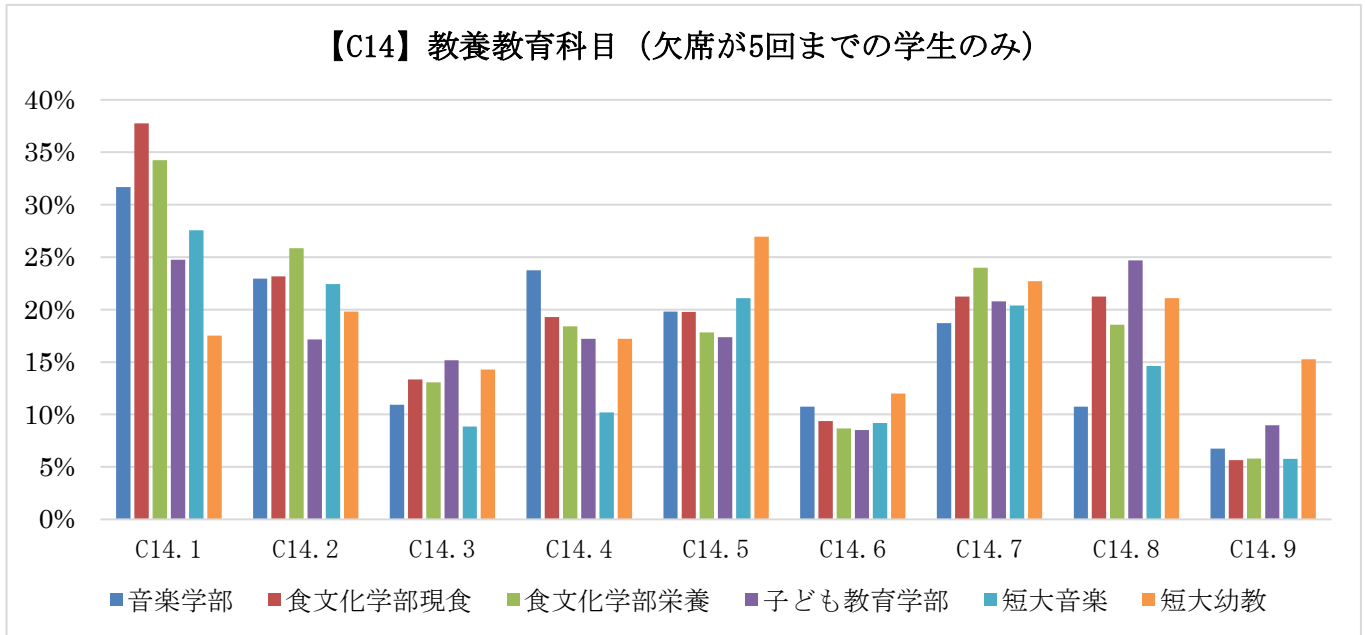


教養科目が良い授業だったかという問いに関して「とてもそう思う」または「そう思う」という肯定的回答率の合計は79%～88%（H30 77%～88%、H29 70%～85%）である。学生の概ね8割以上が、履修した授業を良い授業であったと評価している。そして平成29年度年度以降、肯定的割合は増加傾向にある。だが、音楽学部及び短大音楽専攻における否定的回答率は平成30年度に比べ上昇しており（音楽学部 1%→5%、短期大学音楽専攻 2%→8%）、否定的回答率を下降させるための対策が必要である。



専門科目が良い授業であったかという問いに関して「とてもそう思う」または「そう思う」という肯定的回答率の合計は86%～95%（H30 87%～94%、H29 87%～93%）である。そしてこの4年間、学生の9割前後が、履修した授業を良い授業であったと評価している。教養科目に対する評価よりも高い評価が与えられているのは、専門科目の方が学生の要求に合っているからだと理由だけではないであろう。また、部局間に評価の格差がある。個人レッスンに対する肯定的評価が高くなりがちであることを踏まえると、肯部局間に評価の格差が生じるのは当然である。

14. この授業を受けた成果としてあてはまる項目について、全てを選択してください



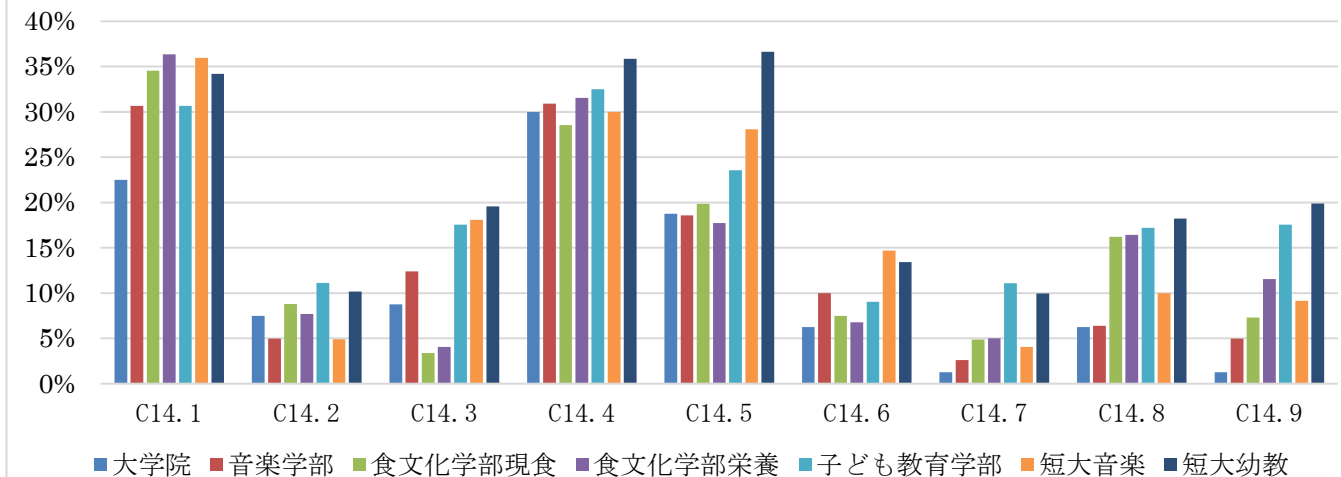
- C14.1 専門的知識や技術、または言語能力やICT活用に力などが身に付いた。
- C14.2 人間や社会、文化や自然などへの理解が深まった。
- C14.3 表現力やプレゼンテーション能力が身に付いた。
- C14.4 さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた。
- C14.5 進んで取り組む実践力が身に付いた。
- C14.6 問題を発見して解決する力が向上した。
- C14.7 人としての生き方を考えることができるなど、人間形成に役立った。
- C14.8 コミュニケーション能力やお互いに協力し合う力が向上した。
- C14.9 職業を選択する力の向上や、職業に就く意欲がわいた。

教養科目に関する各部局の学生の評価は必ずしも一様ではない。比較的多くの学生が教養科目を履修した成果として選択したのが、平成28年度から30年度までと同様、「C14.1 専門的知識や技術、または言語能力やICT活用の力などが身に付いた」、「C14.2 人間や社会、文化や自然などへの理解が深まった」、「C14.4 さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた」、「C14.5 進んで取り組む実践力が身に付いた」、「C14.7 人としての生き方を考えたり、人間形成に役立った」、「C14.8 コミュニケーション能力やお互いに協力しあう力が向上した」という項目である。

「C14.1 専門的知識や技術、または言語能力やICT活用の力などが身に付いた」、「C14.2 人間や社会、文化や自然などへの理解が深まった」、「C14.5 進んで取り組む実践力が身に付いた」、「C14.7 人としての生き方を考えたり、人間形成に役立った」を選択した学生の割合は、平成30年度の割合と比較すると、若干増加している。これは、「授業評価アンケート」の結果が各授業担当者にフィードバックされ、各担当者が授業改善に努めた成果であると思われる。



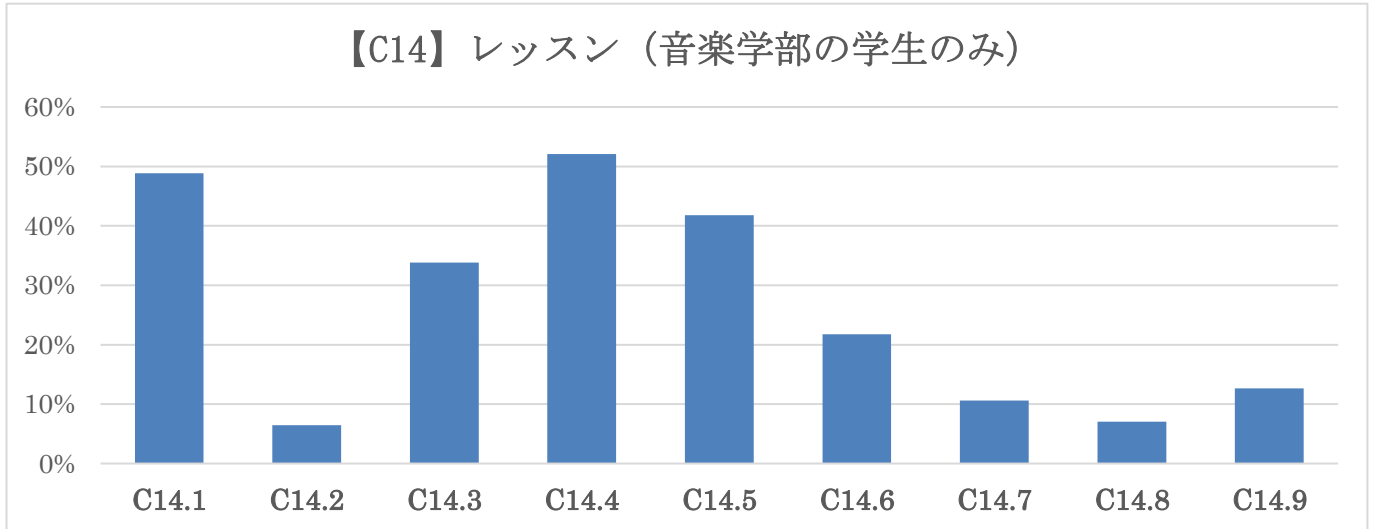
【C14】 専門教育科目（欠席が5回までの学生のみ）



専門科目に関して各部局の多くの学生が履修の成果として選択した項目は、平成28年度から30年度までと同じく「C14.1:専門的知識や技術、または言語能力やICT活用の力などが身についた」、「C14.4:さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた」、「C14.5:進んで取り組む実践力が身に付いた」である。この結果は、学生の専門教育志向という特徴を反映していると思われる。一方、比較的選択されなかった項目は「C14.2:人間や社会、文化や自然などへの理解が深まった」、「C14.7:人としての生き方を考えることができるなど、人間形成に役立った」である。これらの項目は教養教育の成果を表すものであろう。

平成30年度の結果と比べると、各部局において各項目を選択する率がわずかに下降している。また、教養科目に関しては以前より多くの項目が選択されていたが、専門科目に関しては選択された綱目数が減少している。専門科目の特長をより明確にしていく必要がある。

14. レッスンを受けた成果としてあてはまる項目について、全てを選択してください（音楽学部のみ）



- C14.1 専門的知識や技術、または言語能力や ICT 活用に力などが身に付いた。
- C14.2 人間や社会、文化や自然などへの理解が深まった。
- C14.3 表現力やプレゼンテーション能力（演奏技術や表現力）が身に付いた。
- C14.4 さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた。
- C14.5 進んで取り組む実践力が身に付いた。
- C14.6 問題を発見して解決する力が向上した。
- C14.7 人としての生き方を考えることができるなど、人間形成に役立った。
- C14.8 コミュニケーション能力やお互いに協力し合う力が向上した。
- C14.9 職業を選択する力の向上や、職業に就く意欲がわいた。

レッスンでは教員が学生と 1 対 1 で向き合うので、学生個人に即応した内容及び方法が提供されやすい。そのため指導に対する学生の評価は比較的高く、肯定的なコメントや感謝を表す記述が多い。

次に、学生の 30%以上がレッスンの成果として選択した項目を上位から順に 4 項目挙げる。

- C14.4 さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた（52%、H30 48%）。
- C14.1 専門的知識や技術、または言語能力や ICT 活用に力などが身に付いた（49%、H30 45%）。
- C14.5 進んで取り組む実践力が身に付いた（42%、H30 40%）。
- C14.3 表現力やプレゼンテーション能力（演奏技術や表現力）が身に付いた（34%、H30 66%）。

「さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた」及び「進んで取り組む実践力が身に付いた」という自ら能動的に学ぼうとする意欲や、自ら進んで取り組む主体性や積極性のある学生の割合が微増している。

一方、「C14.3 表現力やプレゼンテーション能力（演奏技術や表現力）が身に付いた」を選んだ学生の割合はほぼ半減している。原因を究明し対策を立てる必要がある。

最後に、自由記述の一部を抜粋して掲載する。

- ・曲の改善点を見つけて練習方法を考え直して効率の良い練習で曲づくりに力を入れられた。
- ・毎回丁寧なレッスンをしていただいたので力が身についたと思う。
- ・いつも熱心に寄りそってご指導して頂きとても感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・いろいろな曲を弾く機会がもらえて良かったです。
- ・作曲家ごとの特徴をすごく分りやすく教えて下さいました。
- ・3曲みてもらえた点。曲の雰囲気を感じることができた点。
- ・個人のレベルに合ったレッスンをされる点。
- ・分りやすく指導して頂いたので練習にも取り組みやすかったです。

- ・いつもわかりやすいレッスンでとても楽しかったです。そして毎回新しい課題を出して下さるため、とても勉強になりました！！
- ・毎回自分がしたことをメモして下さっていて、すごくレッスンがスムーズでやりやすかった。
- ・次に見るところを言ってから、授業を終わっていたこと。
- ・毎回レッスンの度に自分の力が上っていているのが実感できる！
- ・細かく教えてくれました。
- ・分かりやすいたとえを使ってくださったりして身に付きやすかった点。
- ・私のことを考えてくれたレッスンでとても助かった。
- ・もっと頑張る曲をちゃんと仕上げようと思えるレッスンだった。
- ・テクニックをつける方法を身につけることが出来た。
- ・曲の背景と関連づけてレッスンをしてくださり、勉強になった。
- ・曲に関することはもちろん、日常の会話もたくさんしていただいて、救われることが多くありました。楽しかったです。2年間ありがとうございました^^
- ・演奏技術が上がった点。
- ・専門技術はもちろん、演奏をする際の精神面についても学ぶことができました。有難うございました。
- ・的確にご指導頂けました。
- ・ピアノのテクニックはもちろん、音楽表現の仕方など、幅広い知識を分かり易く教えて下さいました。ありがとうございました。
- ・自分に合った伝え方をして下さるので分かりやすい。
- ・親身になって本当に将来に役立つアドバイスをたくさんして頂きました。4年間で得た情報や技術はかけがえのない宝物になりました。
- ・改善点を分かりやすく教えて下さり、効率よく練習できました。
- ・様々なことを教えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。4年間ありがとうございました。
- ・自分に合わせて分かりやすく教えてくださって、とても勉強になりました。
- ・聞く事についてすべてていねいに指導してくれていた。
- ・相談したらしっかり答えてくれたり、親身に相談に乗ってくれたりしたので良かった。